

令和5年度 学校卒業後における障がい者の学びの支援に関する実践研究

地域連携による障がい者の生涯学習機会の拡大促進

# 大館市 障がい者の生涯学習推進事業 事業報告書



令和6年3月  
秋田県大館市教育委員会

## 事業3年目を終えて

大館市生涯学習連携協議会 会長 櫻庭 直  
(北教育事務所 主任社会教育主事)

大館市「障がい者の生涯学習」推進事業の3年目が終了しました。

大館市では、令和2年度に先導的共生社会ホストタウンの認定を受け、障がい者の学ぶ機会の充実を図るために大館市生涯学習連携協議会を設置しました。「一人たりとも置き去りにしない大館型教育の理念」に基づき、障がい者が生涯を通じて学び続けられるように、「障がい者の生涯学習」の取組を開始しました。

1年目は「作る」をテーマとして本協議会の組織を作り、事業をスタートさせました。手探りの状況の中、中央公民館の講座を中心に行ってみました。一つ一つの事業をまさに作り上げた一年でした。試行錯誤の中での実施ではありましたが、保護者の理解が参加者のリピート率の増加につながったことや、比内支援学校を核とした情報発信が参加者増加に結び付くなどの成果がありました。しかしながら、連携している施設以外の障がい者への周知方法が課題として残りました。

そこで2年目は、テーマを「広げる」とし、他関係機関との共催等を模索してみました。本協議会の関係者からの声掛けなどの協力により、多くの機関等と結び付くことができ、事業の幅が広がりました。特に、比内支援学校青年学級と結び付くことができたことは大きく、本事業と連携し中央公民館で開催した青年学級には、総勢50名が参加し、大盛況でした。残念なことに事業1・2年目は、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業等を延期・中止・自粛せざるを得ない状況が続き、もどかしさを感じながらの2年間となりました。

そして、3年目となった今年度。テーマを「展ずる」とし事業を実施しました。新型コロナウイルス感染症も5類へと移行したことを受け、講座も活発に実施することができました。支援学校や障がい者福祉サービス施設、大館市の関係課・図書館、公民館など多くの主体との連携も深まり、事業も多岐にわたるなど充実した一年間を送ることができました。

その中でも、忘れることのできない事業として「なんでも発表会」があります。障がいのある方が、自分の得意なことを思い思いに発表するその姿に、私は感動して心が震えました。ふと、横を見ると、母親なのでしょうか。表現している子の姿を、涙を流して御覧になっている方がいました。きっと、我が子の成長を心から喜んでいるのではないかと思いました。ほくしか鹿鳴ホールという大きな会場で表現できたことは、参加した障がい者にとって忘れることのできない最高の思い出になったのではないのでしょうか。「障がい者の生涯学習」に取り組んで、本当によかったと実感することができた発表会でした。今年度は、本事業にとって飛躍の一年になったと感じています。

今年度、そしてこれまでの3年間、御尽力いただきました本協議会の委員の皆様をはじめ、ボランティア及び関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。まだまだ発展することができる事業であると考えていますので、本報告書を御一読いただき、御指導・御意見をいただければ幸いです。



# 目次

「事業3年目を終えて」 .....	1
大館市生涯学習連携協議会 会長 櫻庭 直 (秋田県教育庁北教育事務所 主任社会教育主事)	
目次 .....	2
○事業計画・連携協議会 .....	3
事業概要・事業内容 .....	4
(1) 生涯学習プログラムの開発・実施	
(2) コーディネーターの活動及びボランティアの育成	
(3) 見込まれる成果・効果	
事業日程 .....	8
大館市「障害者の生涯学習」推進事業(ポンチ絵) 大館市生涯学習連携協議会 第1回～第3回会議録	
○各講座の報告・成果と課題・来年度事業実施(案)	
「それって、自己満足じゃん」 コーディネーター 佐藤 正好 ...	24
「障害者の生涯学習事業実績 講座実施報告書	
○資料 .....	41
大館市障がい者サポーター養成講座資料	
聴覚障害体験発表資料	
令和5年度大館市障がい者サポーター養成講座 アンケート集計結果 なんでも発表会パンフレット	
○編集後記 .....	55

- 事業計画
- 連携協議会

## 地域連携による障がい者の生涯学習機会の拡大促進

### 事業名：大館市「障がい者の生涯学習」推進事業

《事業計画》

#### ○目的

学校卒業後における社会教育施設を活用した生涯学習機会の拡大促進及び地域連携による持続可能な学びの支援に関する実践研究

障がい者が求める生涯学習講座の展開と市民（支援者）には、障がい者との交流する機会を提供することで相互理解を深め、心のバリアフリーや合理的配慮を学び、共生社会の実践へつなげる。

#### ○事業概要

◇連携協議会活動の充実

★年3回の連携協議会の開催

★連携協議会協力団体〈目標19団体 ※R4同数〉

◇障がい者のニーズ調査と講座企画への反映

★比内支援学校青年学級及び就労施設との連携による聞き取り調査等を行い、今年度の講座内容へ組み入れる。

◇生涯学習講座の展開と実践発表

★1回の講座開催に複数の内容を組み入れ、参加者が選択できるようにする。

★市が推進するボッチャ体験を組み入れ、今後の交流体験へつなげる。

★オンライン配信の実施の可能性を調査する。

★障がい者の文化活動を発表する場を創出し、共生社会への理解へつなげる。

◇支援者（高校生、学生、市民）の育成

★生涯学習講座における相互交流の場を創出し、一緒に体験する機会とすることで理解を深める。

◇福祉部門との事業連携

福祉部門で実施している「障がい者サポーター養成講座」との連携を行い、受講者が本事業における生涯学習講座へ参加する仕組みを作る。

#### ○事業内容

（1）生涯学習プログラムの開発・実施

・生涯学習連携協議会の開催 年3回

◇第1回連携協議会 ①日時、会場 7月5日（水）10：00～12：00 中央公民館

②案件 ・委嘱状交付

・R5年度事業計画について

- ◇第2回連携協議会 ①日時、会場 11月9日(木) 15:00~16:30 中央公民館
  - ②案件 ・実施済み講座の報告について
  - ・予定している講座の報告
- ◇第3回連携協議会 ①日時、会場 2月14日(水) 15:00~16:30 市役所本庁
  - ②案件 ・障がい者の生涯学習講座の実績について
  - ・事業報告書作成について
  - ・今年度の成果と課題、来年度の事業実施について

・障がい者のニーズ調査と分析

- ◇対象者 講座の参加者
- ◇調査方法 聞き取り内容を決めておき、各講座開催時に時間を設けて聞き取り、ニーズ調査を行う。
- ◇分析方法 聞き取りから得られた情報分析を行う。
- ◆本事業開始前に、比内支援学校青年学級や就労施設での聞き取りを実施し、講座内容へ反映させる。また、運営への協力を仰ぐ。

・障がい者の生涯学習講座の開催

- 8月 ピザ作り講座
- 9月 チーズケーキ作り講座
- 10月 防災教育講座
- 11月 比内支援学校青年学級
- 12月 そば打ち講座
- 1月 なんでも発表会

・障がい者の活動を広げる取り組み

施設名	事業名	備考
栗盛記念図書館	図書館利用支援事業	比内支援学校との連携
スポーツ振興課 スポーツコミッション大館 スポーツ協会	ハチ公カップ	パラスポーツの普及と交流 学生ボランティア登録と支援
障害者自立・差別解消支援協議会	みんなでスポーツの会	高校生ボランティアとの交流
少年自然の家	出前講座の活用	防災教育等

・比内公民館の取り組み

◇比内支援学校との連携

開催日	事業内容	備考
年3回	高等部生徒によるカフェの出店	高齢者学級「青空学園」
11月	比内芸術文化祭での軽食の提供	お汁粉

◇障がい者福祉サービス施設との連携

開催期間	事業内容	備考
8月～3月	とっと工房アートギャラリー展	地区公民館等巡回

・支援関係者を対象としたボランティア養成講座の開催

開催日	事業名	備考
11月	障がい者サポーター養成講座	福祉課、障害者自立・差別解消支援協議会との連携

・講座の周知方法（継続）

- ◇連携協議会委員所属の団体へのチラシの配布
- ◇市ホームページ及び市広報への掲載
- ◇地元紙への記事掲載
- ◇比内支援学校を通じた卒業生へのチラシの送付
- ◇市内大型店舗への掲示

・障がい者の声を活かした講座展開

- ◇比内支援学校青年学級及び就労施設での聞き取り
- ◇講座終了後の参加者への聞き取り

・成果報告及び普及活動

- ◇生涯学習講座の成果発表会の開催
- ◇事業報告を市ホームページへ掲載
- ◇比内支援学校高等部生徒及び保護者への事業普及活動
- ◇事業報告書（印刷物、記録動画）の作成及び配布

(2) コーディネーターの活動及びボランティアの育成

- ◇スケジュール

4月	

5月		
6月	コーディネーターとの事業実施に向けた打ち合わせ	
7月	第1回連携協議会への参加、連携協議会への提案及び各講座へのアドバイス	
8月		
9月		
10月		
11月	第2回連携協議会への参加	
12月		
1月	事業報告書の作成協力	
2月	第3回連携協議会への参加	▼
3月		

(3) 本事業実施により得られると見込まれる成果・効果

◇アウトプット目標

★連携協議会協力団体〈目標19団体 ※R4比較同数〉

★障がい者への聞き取りにより決定した生涯学習講座を1回の講座で数種類を実施し、

参加体験の機会を増やす。

★オンライン配信の実施の可能性についての継続調査

★講座の開催〈目標：月1回 計10回、参加人数延べ200人〉

★広報による講座周知及びチラシの配付とネットによる情報発信

★継続希望する講座を持続可能にするための研究

★ボランティア養成講座受講者等への生涯学習講座への参加を募り、障がい理解を促進させる。(目標1講座2名)

★障がい者の文化活動を発表する場を提供する。

◇アウトカム目標 (中長期的に得たい成果)

★障がい者が継続的に必要としている講座の充実及び支援者の理解と育成

★社会教育施設で継続できる講座の把握及び事業連携の拡大による生涯学習機会の拡大促進

★障害者の生涯学習事業を継続的に実施できる社会教育施設 (5施設)

◇本事業における得られた成果の活用策又は見通し

★成果を参考に社会教育施設での自主事業として継続的に実施する。

★成果を社会教育施設でのサークル活動として活用する。

★成果を障がい者が合理的配慮を受けながら、学び続けられる共生社会の構築につなげる。



令和5年度

# 大館市「障がい者の生涯学習」推進事業

## 背景

- ◆第7次大館市社会教育中期計画（令和2年度～令和5年度）重点施策
  - 障がい者のための生涯学習の推進
  - 共生社会の学習の充実
- ◆先導的共生社会ホストタウンの認定（令和2年12月25日認定）
  - 各種計画との連携によるバリアフリーまちづくり など

## 目的

- 学校卒業後における障がい者の生涯学習機会の拡大促進
- 地域連携による持続可能な学びの支援に関する実践研究

## 令和5年度 事業概要

- 連携協議会活動の開催及び充実（年3回）
- 障がい者のニーズ調査と講座企画の反映
- 社会教育施設における講座等の展開と実践発表
- 支援者の育成 ●福祉部門との事業連携
- 市民への情報提供 ●持続可能な活動の実践研究



◎大館市



## 今後の方向性（令和6年度以降）

- 社会教育施設における講座の計画及び実施
- 参加者への聞き取りによる講座の充実
- ボランティア養成講座の実施及び障がい理解の交流促進
- 市民への情報提供の継続 ●福祉部門との事業連携

## 実施体制



文部科学省委託事業

主催：大館教育委員会 生涯学習課

## 令和5年度 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進 取組概要

### 団体名（所在地：秋田県大館市）

#### 事業名

大館市「障がい者の生涯学習」推進事業

#### 主な連携先

県北教育事務所、市内支援学校、市内高等学校（3校）、市内障害者支援施設（6施設）及び障害者団体等

#### 主な対象

障がい者（身体・知的・精神・発達ほか）、当事者家族、支援者、健常者（一般市民）等

#### 事業の趣旨・目的

- ・学校卒業後における障がい者の生涯学習機会の拡大促進
- ・地域連携による持続可能な学びの支援に関する実践研究

#### 学習プログラムの内容

- ・生涯学習連携協議会の開催（年3回）
- ・障がい者のニーズ調査と講座企画の反映
- ・社会教育施設における講座等の展開
- ・障がい者の生涯学習講座の開催
  - ピザ作り講座（8月20日（日））
  - チーズケーキ作り講座（9月3日（日））
  - 防災教室（10月15日（日））
  - そば打ち講座（12月17日（日））
  - なんでも発表会（1月21日（日））

#### 今年度の取組状況

- ・障がい者の活動を広げる取り組み  
支援学校と連携した図書館利用支援事業、バラスポーツの普及と交流、障害者自立差別解消支援協議会と連携した高校生ボランティアとの交流、少年自然の夜出前講座の活用（防災教育）
- ・市内公民館と支援学校との連携による取り組み  
高等部生徒によるカフェの出店（年3回）、市内芸術文化祭での軽食提供（11月）、アートギャラリー展の開催（地区公民館巡回6月～3月）
- ・障がい者サポーター養成講座の開催（11月開催）  
福祉課、障害者自立・差別解消支援協議会との連携

#### 事業実施体制



#### その他研究の詳細など

##### 令和4年度 講座の開催実績（参加者数）

- （生涯学習講座）
- ・SDGs木のリース作り講座 10人（うち障がい者数3人）
  - ・一花一葉講座～アーカイブ配信～ 13人（うち障がい者数3人）
  - ・おうちパン 12人（うち障がい者数5人）
  - ・比内支援学校青年学級 25人（うち障がい者数21人）
  - ・今年も音楽で遊ぼう 12人（うち障がい者数12人）（ほか2講座）

##### （ボランティア養成講座）

- ・ボランティア養成講座 3講話2講座実施（うち2回はアーカイブ配信）

##### （成果）

- ・アーカイブ配信による講演の開催
- ・継続的な参加者の増加（おうちパン、音楽であそぼう）
- ・比内支援学校青年学級を市立中央公民館で開催し、社会教育施設の利用体験を実施
- ・連携協議会を通じて、福祉部門との事業連携の可能性が出てきた。

##### （課題）

- ・障がい者への分かりやすい講座内容の周知
- ・障がいがある方が希望する講座のニーズ調査の必要性
- ・社会教育施設における障害者事業の取組の理解促進

令和5年度 生涯学習連携協議会開催実績

回数	開催日/場所	活動内容	活動内容
1	7/ 5 (水) 10:00~11:30 中央公民館	第1回連携協議会	1. 届状交付 2. 教育長あいさつ 3. 委員紹介 4. 会長及び副会長の互選について 5. 協議 令和5年度事業計画について 出席者数: 20人
2	11/9 (木) 15:00~16:30 中央公民館	第2回連携協議会	報告 1. 障害者の生涯学習講座の進捗状況と課題について 2. 今後の講座の実施について  出席者数: 16人
3	2/14 (水) 15:00~16:30 本庁	第3回連携協議会	1. 障がい者の生涯学習講座の実績について (報告) 2. 実績報告書の作成について 3. 来年度事業 (案) について 出席者数: 14人

1. 委嘱状交付

2. 教育長 あいさつ 高橋 善之教育長

3. 委員紹介

4. 会長及び副会長の互選

会長：秋田県教育庁北教育事務所 主任社会教育主事 櫻庭 直氏

副会長：大館市社会福祉協議会 事務局次長 佐藤 美紀子氏

5. 協議

(1) 5年度事業計画について

櫻庭会長：今年度の事業計画について、事務局より説明してください。

糸屋課長：今年度の計画案を説明

・令和5年度事業計画

連携協議会の開催予定、障がい者の生涯学習講座の開催内容及び開催予定日等を説明

特別支援教育アドバイザー佐藤

障がい者の生涯学習に係る利用者の等の聴き取り調査結果について(説明)

比内支援学校 代表3人、白沢通園センター 利用者執行委員の会10人より聴き取り  
生涯学習課糸屋、小林が同席

結果としては、カラオケ、のど自慢がダントツで、次に多かったのが、スポーツ関係、バ  
スケット、フライングディスク、スカットボールなど

その次に多かったのが、ラーメン、そば作り等、そのほかコスプレ、サイクリング、ウオ  
ーキング

丸屋委員

支援関係者を対象としたボランティア養成講座の開催について

障がい者自立・差別解消支援協議会との連携による障がい者サポーター養成講座の開催  
予定について説明があった。

障がい者サポーター養成講座の開催は、連携して行った方がより効率的である。詳細につ  
いては担当者同士で詰めていきたい。

#### 工藤委員

大館市先導的共生社会ホストタウン関連事業について

大館市先導的共生社会ホストタウン事業の説明と、11/25、26 開催予定のハチ公カップ(ボッチャの競技会)の説明があった。

#### 庄司委員

ボッチャ活動は、一緒に活動できる子どもたちが活動している正課クラブがあり、自主的な活動として根付いていけるのでは。また、新任の先生を対象にタクミアリーナでボッチャの体験も行っていることもあり、そういう機会も増えている。

#### 田村委員

スポーツ振興課と歩調を合わせて運営している。日本ボッチャ協会と協力し、日本代表チームの招致を検討している。障がいのある方の勇気づけとなるのではと考えている。

#### 佐々木委員

テント設営などのアウトドア体験、防災教育関連、ポリ袋カレー天体観測などの出前講座の説明があった。

#### 坂上委員

比内支援学校と連携した図書館利用支援事業読み聞かせ体験サポート、施設内の見学、本の借り方のレクチャー、本の楽しさを知ってもらう取り組み内容を説明。

#### 各学校関係より

##### 銭谷委員

夏休みを中心に活動する予定

##### 今川委員

比内支援学校高等部1年生と福祉コース2年生が生徒交流している。

調理実習、模擬面接などの交流を行っている。非常に中身の濃い交流。友人の兄弟、友達関係にあるため

##### 奈良委員

インターアクト部、ボランティアを中心とする部活動で協力可能

##### 鎌田委員

卒業生を支援するという意味でとても大事だということで取り組んでいる。卒業生はとても楽しみにしている。生活のメリハリ、仕事への意欲へとつながっている。去年は中央公民館で行っているが、在学中から連携していくことがとても大事であるとする。学校は、生徒たちが地域に出ることがテーマと考えており、卒業生だけではなく、在校生にも声掛けしていただければありがたい。

#### 佐藤委員

様々な活動をしており、とても感動している。

#### 佐々木委員

5月に聞き取りに来ていただきありがとうございます。夢を膨らましており、活動を楽しみしている。

#### 畠山委員

年寄りが多く、交通手段の足がない、何とかしてもらえると助かる。

#### 糸屋課長

ふれあい号は予約していく。モビは試行段階で、話は担当課に通しているが、今後のものになっていくと思われる。

#### 麓委員

昨年、様々な事業に参加しての感想は、笑顔が見れてよかった。特にカラオケのはじけっぷりを見ると、皆さん音楽が好きなのが分かった。のど自慢を行うことは新たな試みとして大変良いことだと思う。

ただ、畠山さんと同様に障がい者の方を連れていく家族の高齢化ということで、どうみても足がないため参加できない。障がいが重度に慣れている方の参加できるものが欲しいと会員から言われている。くみ取ってもらえるとありがたい。

#### 菊地委員

言葉が話せない。トイレ介助が必要な方が利用している。その方たちが、将来にわたって、豊かな人生を送れるようにと考え、目標を立てている。

そのような中で、今年度、比内公民館で、利用者が制作した作品を展示していただくこととなり、とても感謝している。この取組を北部エリア、男女共同参画センター等へも広げていく予定である。仲澤さんのような突出した絵ではなくとも、他の利用者にも活動を広げていきたい。

作品を出すとき名前を出してよいかと保護者に確認しているが今のところ断る方はいない。社会に開かれることが非常に大事なこと。また、移動図書館も来ていただいており、とても感謝している。

#### 堀口委員

公民館、サークルに占拠されており、使えない。そこを何とかいいアイデアがあれば。パソコンの講座があればお願いしたい。

鈴木委員

ホストタウンに関連して、足の問題、歩道の調査、点字ブロックなどの調査をした。かなり前に調査したが今どようになっているのか知りたい。車いすで利用する出来る施設や宿泊施設がこれからどうなっていくのか。今後どうなっていくのか知りたい。

ボランティアフェスティバルを復活できないか。検討してみてもどうか。

佐藤委員

ボランティアフェスティバルは、社会福祉協議会で行っていたが、職員が高齢になり終了した経緯がある。帰って報告しますが、やる方向にはならないと思う。

鈴木委員

何か形を変えてやった方がいいのでは。検討してもらいたい。

櫻庭会長

見える化が必要だと思う。

菊地委員

昨年度講座に参加した利用者が大変喜んでいて。今年度も利用者の動向を把握していき参加させていきたい。

麓委員

コロナ禍でいろんな行事をやめてきた。なんでも発表会を行う予定であれば、今あるものに地域の方と障がいのある方が交流できる場にするということはすごく大事なことで考えている。ぜひ検討していただきたい。

糸屋課長

今回の講座の中で生かしていきたいと考えている。

櫻庭会長

是非、参加している皆さんが連携して取り組んでいただきたい。

※今年度計画している各事業について、各委員が連携して取り組んでいくことを確認し協議を終了した。



1. 会長あいさつ

2. 報告

(1) 障がい者の生涯学習講座の進捗状況と課題について

(2) 今後の講座の実施について

・事業の中間報告と今後の事業説明

糸屋課長

これまでの講座の開催状況となんでも発表会について説明

質疑応答

堀口委員

なんでも発表会について利用者でハチ公ガールズが好きな人がいるが出演が可能か

糸屋課長

出来る限り、要望に応じていきたい。

中央公民館一関

参加対象は生涯学習連携協議会の加盟団体の障がい者が対象となるのか

糸屋課長

障がい者が対象で、一般の方はサポーターである

外館館長

著作権の問題はないのか。また、歌が1分だとさびの部分をもどのようにするのか？途中でやめるのか？

糸屋課長

のど自慢形式で行う予定である。著作権に関しては、SNS等で公にしなければ大丈夫だと考えている。会場に来場した方には、その旨周知する。

櫻庭会長

著作権に関しては、かなり厳しいものがある。そこはしっかりと周知する必要がある

#### 菊地委員

なんでも発表会にぜひ参加させていただきたいと考えている。3分だと発表が難しい。準備にかなり時間がかかるため。ちょっとその辺は厳しい。今回の比内公民館の協力による展示については大変ありがたく思っている。重度の障がいのある方が多く、励みとなる。

#### 鈴木委員

いろんな障がいの方がいるため、参加については、なかなか難しい。みんな歌が好きで、カラオケの機械を借りてやったこともある。3分間では時間は足りない。施設としては50代の方が中心で、どういう人を対象としているかわからないため、その辺を明確にする必要がある。イベントをやることは賛成である。

#### 糸屋課長

20組といっても、そんなに集まらないかもしれない。今回は、歌っているところを見てもらうことが目的である。時間については、参加者数を見て検討していきたい。

#### 麓委員

第1回の会合で、歌を歌うことを支援学校で知った。そこでエネルギーを感じた。今回は、20組ではあるが10組でもよいのでは。大館市がこのような企画していただいたのは大変ありがたい。失敗を恐れずチャレンジしていただきたい。育成会としても今後協力していきたい。

#### 櫻庭会長

時間的な問題もあるが、参加者が楽しんでもらえるような企画になればよいと思う。

今後

事務局より協力依頼があると思う。その際は、よろしく願います。

・障がい者の活動を広げる取り組み

#### ○図書館利用促進事業

説明者：一般財団法人大館市文教振興事業団 栗盛記念図書館 坂上隆義館長

図書館見学の実績、小学部を対象とした読み聞かせ、ワークショップ会場での読み聞かせなど今後の予定を説明

#### ○みんなでスポーツの会

説明者：社会福祉法人大館圏域ふくし会 施設長補佐 佐々木真之介

みんなでスポーツの会9月25日 の開催状況を説明。

会場：矢立育成園 参加者：矢立育成園、白沢通園センター、職員20名

アキュラシー（ディスクコントロールの正確さを競う種目）

○比内公民館取り組み

説明者：比内公民館 係長 嶋田昌歌

比内支援学校との連携事業、比内芸術文化祭 おしるこの出店の内容、障がい者福祉サービス施設との連携事業として、とっと工房アート展として、各地区公民館での巡回内容を説明

庄司委員

支援学校の子どもたちも読み聞かせをしたのか

坂上委員

本の借り方を説明し、貸出カードを作ってもらった

12月14日の2回目は図書館の利用者に披露する。読み聞かせのボランティア団体の指導により練習する。

最終的につどいの広場で参加者の皆さんへ読み聞かせを披露することを予定している。

櫻庭会長

本日は欠席しているが、佐々木委員（大館少年自然の家所長）より、11月から冬季間のため、閉鎖となっているが出前講座は受付していることの紹介を言付かってきた。

佐藤コーディネーターより

麓委員より「大館市がほくしか鹿鳴ホールの中ホールを準備していただいたのは、大きな

こと。」とお話があったが、私も同感である。多くの方がカラオケ、踊りなどが大好きである。このように中ホールを準備している自治体は全国的にはまずないのでは。なんでも発表会は待ち時間などの課題があるが、今後は協議しながら事務局で検討する必要がある。連携協議会の委員のご協力をお願いします。

※今後開催される予定の「なんでも発表会」への協力をお願いします、協議会を終了した。

1. 会長あいさつ

2. 報告

- (1) 障がい者の生涯学習講座の実績について
- (2) 実績報告書の作成について
- (3) 今年度の成果と課題、来年度の事業実施について

(1) 障がい者の生涯学習講座の実績について

・生涯学習講座について

糸屋課長説明

生涯学習講座は、最初参加者同士のつながりがなかったが、回を追うごとに交流の糸口を作れるようになった。職員とも顔みしりになり、リピーターも増えていった。

そば打ち講座は、企画段階で、講師から説明の伝え方やそばを打つ、切る作業が高度な作業であるため、開催を不安視されたが、家族の同伴を条件にご了解いただいた。

なんでも発表会では、コーディネーターの尽力によるところが大きく、各施設を訪問し、職員や利用者へ事業内容を説明して、参加の輪を広げていただいた。ボランティアでは、大館国際情報学院高校と大館桂桜高校の生徒は資格試験があるため、参加していただくことができなかったが、大館鳳鳴高校からは11名が参加し、ステージ裏や受付等の運営に協力してくださり、スムーズに進行させることが出来た。発表を通じて、参加者とボランティアや観覧者との交流が、心のバリアフリーや共生社会の実現につながっていくのではないかと思った。

・障がい者の活動を広げる取り組み

○図書館利用促進事業

説明者：坂上委員（栗盛記念図書館館長）

比内支援学校の学習の一環と連携した事業として読み聞かせ活動支援を事業説明

「絵本の中の言葉、語りの表情などの身体表現等通じて、図書に親しみながら、言葉が持つ面白さや、思いを伝えることの楽しさや喜びを感じられる学習としたい。」という比内支援学校の目的があり、図書館としては、図書館に親しんでいただきたいという思いから、このような取り組みを行った。

比内支援学校の生徒による読み聞かせ会を開催するため、9月からボランティアサークル「おはなしの森」や図書館職員から助言・指導を受けて練習を重ね、成果発表として2月7日（水）図書館利用者を対象とした「読み聞かせ会」を開催した。

#### ○比内公民館の取り組み

説明者：比内公民館 係長 嶋田

比内支援学校との連携した取り組み、高齢者学級「あおぞら学園」でのハチ公カフェの実習、芸術文化祭での4年ぶりのおしるこの出店は大変好評で約100食を完売した。

とっと工房アート展、例年開催している新春書き初め会では、高校生や一般の方を対象にした秋田杉の杉板への書き初めを新企画した。開催するにあたり、比内支援学校へ杉板の制作をお願いした。作品は1月いっぱい公民館などに展示した。(制作した杉板を委員へ供覧)

#### 《質疑応答》

##### 麓委員

なんでも発表会は、ボランティアとして育成会の方からも参加した。みんな生き生きとしていた。昨年ステージを用意出来たらいいと思ったが、今年その機会があり、うれしい。来年はこういうことをやりたいと意見が出ている。障がい者だけではなく、健常者も参加できればいい。一般の方がイベントをやることを知らなかった。いろんな方が来てもらいたかった。広報をどうしていたのか。

##### 糸屋課長

広報は弱かった。開催するので精いっぱいであったため、周知する余裕がなかった。観覧者に福祉課の職員がおり、開催後、幼少期に相談員として関わった後、成長した姿を見ることがなかったが、今回発表する姿を見ることができて、うれしかった。年2回開催してほしいとの発言があった。

##### 麓委員

なんでも発表会、開催していただき、ありがとうございました。

##### 鈴木委員

なんでも発表会に参加し、みんな喜んでいた。ありがとうございました。

障がい者の施設4つか、5つの施設がまとまって毎年、披露する機会があったため、そこがベースにあったため、参加しやすかった。特別賞の盾をもらってうれしかったのではないか。しかし、発表する方々に優劣をつけるのは、若干どうなのかなと思う。健常者の目線で評価していた。Kポップスなどを基準として選んでいたような気がする。彼らはそれだけではない

##### 堀口委員

なんでも発表会に出場した方は目標としていた。

生活していく中で、発表会がある。そういった機会を作ってくれてありがたい。参加する

ことに意義がある。ボランティアなど運営も素晴らしかった。

#### 畠山委員

参加してよかった。一部の人だけでなく、健常者と障がい者が一緒に参加できれば尚よい。みんながいる前で、市民のみんなに見てもらいたい。

#### 庄司委員

なんでも発表会は大成功であった。とても感激した。出演した方が発表できたこと。サポート体制が良かった。生涯学習課には継続していただきたい

ボランティアの交流の場にもなっていた。出演した方の主役の輝きを失わないようにすればなおよい。スタッフ同士のつながりもできた。

#### 佐藤委員

参加者は、リハーサルではとても緊張していたが、本番は生き生きしていた。連携も整っていた。第1回目にしてはとても良かったと思う。

#### 糸屋課長

レベルアップしながら、この後も出来れば良いと思う。障がいのある方に事業を理解してもらうため、コーディネーターがとても大きく動いてくださった。一緒に活動することで、感動が生まれる。できるだけ多くの方々に見てもらうように工夫していきたい。

#### 鎌田委員

生涯学習課、図書館、公民館等の行政が、生徒のことを考えてくださり、行政が関わっていることは心強い。県内でもこのようにやっているのは他にないのでは。3年間の集大成がなんでも発表会では。地域に出ていくこと、地域のニーズに応えていくこと。地域のメリットと生徒のメリットが双方のところを考えると計画していけばいいと思う。

#### 櫻庭会長

県内でも、おそらく一番よく支援学校とさまざまな活動に取り組んでいると思う。

#### (2) 実績報告書について

糸屋課長説明

委託業務となる実績報告書の内容、国への提出物について説明

#### (3) 今年度の成果と課題、来年度の事業実施



#### 糸屋課長

今年度はニーズ調査を行い、企画へ反映させた。講座へのリピーターが増えてきた。

講師からは、最初、意図したことがきちんと伝わるか心配する声があったが、講座介在後には、「伝え方も自分自身が学ぶところがあった。今後の講座開催においても、学びが大きかった。来年度も工夫していきたい。」といった感想があった。

サポーター養成講座は、委託先である大館市障がい者自立差別解消支援協会事務局より、共催の継続について、打診があった。継続していきたいと考えている。

また、講座の最後のアンケートと一緒に、障がい者の生涯学習事業での講座開催情報を提供することへの同意をいただくことができたので、来年度事業では、一緒に参加することやサポーターとしての参加していただくことを進めていきたい。

講座参加者同士のつながりや対象をどのように広報するのが課題である。

#### 菊地委員

お礼も含めて、展示の協力を感謝している。作品はなかなか見てもらう機会がない。公民館によっては、産業祭にぶつけていただいたおかげで、多くの方に見ていただくことができた。中央公民館では、ガラスケースに入れてくださった。生活介護サービス区分5や6の場合、作品制作には関われない方がいる。1つのコーナーを設け、説明場所のような場所を設けて何とかデビューさせたい。とっと工房だけでなく、市全体の課題ではないか。

#### 櫻庭会長

個人的には、子どもたちにも広めていきたい。共生社会につながる。

#### 堀口委員

来年度の要望ですが 動画のコマドリは表現ができる。ダリア、生け花など目標にしていた。そういった場面を設けていただきたい。

#### 糸屋課長

R6年度の計画に生かしていきたい。委員の方々の意見を吸い上げていきたい。

#### 堀口委員

見に行くのもOKにしてもらいたい。来年度の課題。

#### 鈴木委員

特別出勤ではないため、利用料が発生しない。レクリエーションであることを納得してもらうことが必要。障がい者にとって映画も見せるのはどうか。オナリ座がいいのか。いろいろ考えている。今回いろんなことを考えるきっかけになったのでは。障がい者の目線からのやりたいことをやる恰好になればよい。カラオケをかけてやっている。それも集まってやればよ

い、1日中やっている。

・来年度の事業実施

糸屋課長

各施設から今年度と同様に委員をお願いしたい。また、これまでできていないが、秋のポッチャ大会に出場できるようにしたい。スマホ関連では安全教室を考えている。

サポーター養成講座開催については、大館市自立差別解消支援協議会（事務局：基幹相談センター）では、夏季休業など開催時期を早め、高校生にも参加の機会を作りたいとのことだったので、取り組んでいきたい。

中央公民館 一関

6年度ではアート展を広めたい。周知の仕方を検討。体験を見せる場など情報があればコラボできるのでは。

麓委員

絵画をやっている利用者がいる。事業所で個展を開いたことがある。アート展に対して関心があるので、広めるのはいいことである。家にいる方が参加できるような仕組みがあればよい。

糸屋課長

いろいろ意見をいただきながら、取り入れていきたい。

堀口委員

アート展を目標にして活動できる方は何人かいる。大館市で周知していただいて、私たちも参加できればいいと思う。

菊地委員

アート展を広めることは賛成

麓委員

デジタルで見れるといい。生活介護サービス6の方を参加させたい。是非やっていただきたい。重度の重い方が参加できればいいと思う。

櫻庭会長

長いスパンで作品をつくる方もいると思うので、そういう周知を是非お願いしたい。

堀口委員

新春書き初めについて、素材に触れて木への習字興味のある方を是非、参加させたい。事務局が負担のない範囲で。

糸屋課長

作り上げる期間は、すごく大事なことなので、その辺も含めて周知していきたい。

麓委員

共生社会カレンダー ネットで分かるようなカレンダーがあればよい

佐藤コーディネーター（本日風邪のため欠席したが、糸屋課長がコメントを代読）

1年目 手探りで始めた。2年目 花火を挙げた。3年目 講座を関係機関と共催して実施した。特になんでも発表会を開催出来たことは、あちらこちらからたくさんの反響をいただいた。

なんでも発表会のような障がい者がステージにあがり、思い思いに自分のパフォーマンスを披露する、発表するような企画を行っているところはどこにもない。

4年目以降は、これらの形を整え、整理して、やっていく方向と形が見えてきた。ハードが整備され、今後は中身の充実を図っていく事業になっていくと思う。

来年度以降も繋げる手の輪をさらに大きくしていく事業に発展することで、市が進める共生社会の実現に繋がっていくと思う。

来年度以降も、本事業へのご協力と闊達なご意見をお願いします。

## ○各講座の報告

「それって、自己満足じゃん」コーディネーター 佐藤 正好  
障害者の生涯学習事業実績  
講座実施報告書

## ○成果と課題

## ○来年度事業実施(案)

## 『それって、自己満足じゃん』

コーディネーター

佐藤 正好

今思えば、学生時代から好んで行ってきたボランティアや福祉・奉仕活動を行うたびに、「それって、自己満足じゃん」という言葉がいつも隣に、あるいは後ろからついてきた感じがする。少し前に尊敬する先輩にそのことを問うてみたら、「それは、まだ深いところまで考えていないからだ」と一蹴された。他人からどうこうと言われた訳ではないが、どうも自分の中でしっくりしていなかったようだ。

さて、私事は別として今年度も障がい者の生涯学習講座が5つ、関係する取組が10数個展開された。昨年度と違う点は、どこか主催者側である生涯学習課にも余裕があったと感じる。ピザやケーキ作りでも、その間にはカラオケやスポーツなど、自己選択できるコーナーが設定されていることも嬉しい配慮であった。やはり参加している方々の目は緩んでいるし、笑顔も多く見られた。

また、今年度の目玉講座はなんと言っても「何でも発表会」である。参加者は大好きなカラオケや踊りを、あるいは自分の得意分野の何でもを発表するのである。NHKのど自慢と同じで、優勝や特別賞にはトロフィー等が授与される。これまで、大きくない部屋で大好きなカラオケを楽しんできたが、本発表会は、ほくしか鹿鳴ホール（市文化会館）の中ホールで行おうとする太っ腹な講座である。中ホールは400人収容であり、数々の芸能が実施されてきた市では一番の場所でもある。

何よりも大きなステージでたくさんの観客を相手に歌ったり、踊ったりする姿は自慢げであったり、逆にとても緊張したりするなど様々であった。でも、参加した皆がスターになった気分を味わい、とても満足気なやさしい表情をしていた。これまでの最高の講座である。全国に障がい者だけののど自慢があるだろうか？全国に障がい者が大きいホールのステージで、何組もスターになる思いができる場を提供している市町村があるだろうか？全国の先駆けとしての本講座を誇り高く思うとともに、生涯学習課の心意気と力強さを感じた。

今振り返ると、「何でも発表会」は初めての開催であった。何事も第1回目の実施は難しいものがあるが、学校に行っても、事業所で説明しても生徒や利用者の方々には発表会のイメージができなかったのである。特に、知的に遅れのあるの方々には、初めてのことで具体的な資料もなく、わかりづらかったと反省している。担当者や関係者の繰り返しの説明や熱意が、参加者19組28人という数字に表れたことをとても嬉しく思っている。

比内支援学校の青年学級発足後に私が願ったのが、中央公民館での実施とつか大きなステージでカラオケをさせたいことであった。だから、今回の「何でも発表会」には特別な思いがあって協力をさせてもらった。今終えて、とても大きな自己満足を感じている。

翻って、自己満足の対義語は他者満足であろうか。でも、他者が満足しなくても自己満足はあり得る。他者満足は自己満足の物差しの一つの価値であり、自己の主観のなかにあると考える。一方で多くの場合、活動の源は自己満足に起因することが多い。だから、私の場合も「自己満足でいいじゃん」ということに落ち着く。

本事業も3年目を終える。今後も参加者や関係者の多くの方々が自己満足を得て、より充実した講座展開ができることに期待したいし、支えとなっていきたい。

【生涯学習講座】

No.	開催日	時間	活動場所	講座名など	内容	講師	参加者数			
							参加者	講師	計	内障がい者数
1	8/20 (土)	10:00～ 12:30	中央公民館	ピザ作り講座	ピザ作り後、カラオケ、フライングディスクに分かれて活動	ピザ作り：小山久美、早川加奈子 フライングディスク：奈良一博	10	2	12	4
2	9/3 (日)	10:00～ 12:00	中央公民館	チーズケーキ作り講座	チーズケーキ作り後、カラオケ、バドミントンに分かれて活動	チーズケーキ作り：小山久美、 早川加奈子	11	2	13	5
3	11/12 (日)	10:00～ 12:00	中央公民館	比内支援学校青年学級	第1部 木育ワークショップ 第2部 カラオケ、バスケットボール（スロロイン）に分かれて活動	ワークショップ講師：河田美智子 小濱朗子、島内美佳子、浪岡美規子	39	4	43	19
4	12/17 (日)	10:00～ 12:00	比内公民館	そば打ち講座	そば打ちの後、参加者で試食	田村徳秋、幸坂堯、嶋田昌歌	12	3	15	5
5	1/21 (日)	10:00～ 12:00	ほくしか鹿鳴ホール	なんでも発表会	ゲスト出演も含め、比内支援学校児童生徒など2組の個人・団体が歌、ダンス等のパフォーマンスを披露	協力：連携協議委員会、高校生ボランティア	121	-	121	29
				合計			193	11	204	62

【障がい者の活動を広げる取り組み】

No.	開催日	時間	活動場所	講座名など	内容	講師	参加者数			
							参加者	講師	計	内障がい者数
1	9/20(水)	10:30～ 12:00	比内支援学校	図書館利用促進事業	ボランティアによる読み聞かせ活動への支援	ボランティアサークル	13	2	15	11
2	9/21(木)	10:00～ 11:00	栗盛記念図書館	図書館利用促進事業	図書館見学	栗盛記念図書館職員	15	1	16	11
3	10/3(火)	9:35～ 10:25	比内支援学校	図書館利用促進事業	ボランティアによる読み聞かせ活動への支援	ボランティアサークル	13	2	15	11
4	11/22(水)	9:35～ 10:25	比内支援学校	図書館利用促進事業	ボランティアによる読み聞かせ活動への支援	ボランティアサークル	13	2	15	11
5	12/14(木)	9:35～ 10:25	比内支援学校	図書館利用促進事業	小学部児童対象の読み聞かせ		37	-	37	17
6	1/24(土)	9:35～ 10:25	比内支援学校	図書館利用促進事業	ボランティアによる読み聞かせ活動への支援	ボランティアサークル	13	2	15	11
7	2/7(水)	9:45～ 11:30	栗盛記念図書館	図書館利用促進事業	図書館利用者対象の読み聞かせ		40	-	40	7



8	11/25 (土) ~26日 (日)	タクミアリーナ	ハチクンオープン (ボッチャ交流会)	タイ王国との交流を記念し、継続する相互交流の 推進と障がい者スポーツの理解や普及、共生社会 への理解を高めることを目的	141	-	141	5
9	9/25 (月)	矢立育成園	みんなでスポーツの会 (アキチュラシー)	矢立育成園、白沢通園センター利用者、職員	20	-	20	17
			合計		305	9	314	101

◇比内公民館の取り組み  
①比内支援学校との連携

開催日	事業名	活動場所	参加人数(人) 下段：うち障がい者	備考
9月21日(木)	高等部校外作業学習「ハチ公カフェ」の実習	比内公民館	54 4	高齢者学級 「あおぞら学園」
10月19日(木)	比内あおぞら学園での高等部校外作業学習「ハチ公カフェ」の実習	比内公民館	45 4	高齢者学級 「あおぞら学園」
11月4日(土)	おしるこの出店	比内公民館	4 2	第49回比内芸術文化祭

②障がい者福祉サービス施設との連携

開催日	事業名	活動場所	備考
8月1日(火)～ 11日(金)	とっと工房アート展	長木公民館	地区公民館巡回
8月21日(月)～ 31日(木)		上川沿公民館	地区公民館巡回
9月15日(金)～ 16日(土)		市民交流センター	地区公民館巡回
10月2日(月)～ 12日(木)		比内公民館	地区公民館巡回
10月29日(日)		真中公民館	地区公民館巡回
11月4日(水)		花岡公民館	地区公民館巡回
1月16日(火)～ 21日(日)		中央公民館	1/21なんでも発表会共催事業

※1月21日の中央公民館で開催されたアート展では、作品展示99点、来館者数延べ250人

◇支援関係者を対象としたボランティア養成講座の開催

開催日	事業名	活動場所	参加人数(人)	備考
11月21日(火)	障がい者サポーター養成講座	中央公民館 2階 視聴覚ホール	80	福祉課、障害者自立・差別 解消支援協議会との連携

講座実施報告書

令和 5年8月20日

講座名	ピザ作り講座とカラオケ及びフライングディスク体験講座		
開催日時	令和 5年 8月20日(日) 10時00分～12時30分		
開催場所	中央公民館調理室、 展示室、体育館	講師名	ピザ作り：小山久美、早川加奈子 フライングディスク：奈良一博
参加者数	10名(うち障がい者数4名)		
実施内容	<p>第1部 ピザ作り (当日準備) 調理台等消毒、お湯を沸かし生地を発酵させる、材料分量計測、受付準備 (講座開始) 課長挨拶、講師紹介後、</p> <p>①本日の流れを説明</p> <p>②講師が事前に発酵させた生地をこねて伸ばし、具材をトッピングし、オープンで焼く</p> <p>③焼成中に生地を作る工程を講師の説明に沿って行い、できたものはタッパーに入れて、持ち帰る</p> <p>④焼けたパンと飲み物で試食会を開催</p> <p>第2部 カラオケとフライングディスク</p> <p>○カラオケ 希望する曲を職員に伝え、順番に歌っていく。参加者の歌を聞いたり、手拍子や拍手で相互理解・交流を行った。</p> <p>○フライングディスク</p> <p>①講師より、投げ方の基本を学び、2人1組で練習する。少しずつ離れていく。</p> <p>②アキュラシーゴールに向かってディスクを投げて、通過させる体験を行った。</p> <p>《まとめ》 講座の感想発表を行い、終了</p>		
成果	<p>《ピザ作り》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想発表では楽しかったとの発言があった。</li> <li>・参加者はおいしそう、上手と声をかけ合い、楽しみながら作っていた。また、持ち帰り用の生地にどんな具材を乗せるかなど雑談しながら、和気あいあいとした雰囲気で作業をしていた。</li> </ul> <p>《カラオケ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・偏ることなく、歌い、一緒に楽しむことができた。</li> </ul> <p>《フライングディスク》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師説明の後練習開始。順番に、アークリーゴールへ投げ込むことができた。</li> </ul>		
課題	講座参加者同士のつながりの構築		

8月20日（土）ピザ作り講座



講座実施報告書

令和 5年 9月 3日

講座名	チーズケーキ作り及びカラオケ・バドミントン体験講座		
開催日時	令和 5年 9月 3日 (日) 10時00分～12時00分		
開催場所	中央公民館調理室、 展示室、体育館	講師名	チーズケーキ作り：小山久美、 早川加奈子
参加者数	11名 (うち障がい者数5名)		
実施内容	<p>第1部 チーズケーキ作り (当日準備) 調理台等消毒、材料分量計測、打ち合わせ、受付準備 (講座開始) 課長挨拶、講師紹介後、</p> <p>①本日の流れを説明 ②生地をヘラやミキサーなどで混ぜ合わせる ③生地を型に流し込み、オーブンで焼く ④焼成中に、講師が事前に作り冷やしておいたケーキを試食 焼きあがったものは冷蔵庫で冷やし、持ち帰る</p> <p>第2部 カラオケとバドミントン 《カラオケ》 ・希望する曲を職員に伝え、順番に歌っていく。参加者の歌を聞いたり、手拍子や拍手で相互理解・交流を行った。 《バドミントン》 ・職員やコーディネーターを相手に、打ち合いを行った。 《まとめ》 ⑤各講座の感想発表を行い、終了</p>		
成果	<p>・感想発表では全員から楽しかったとの発言があった。 ・ヘラで混ぜる際は他の人がボウルを押さえ、ミキサーに生地を流し込む際は他の人がミキサーを支えるなど、参加者同士が自主的に協力しあって作業していた。</p>		
課題	<p>講座参加者同士のつながりの構築 バドミントンでは、参加者どうしがラリーをすることがなかった。</p>		



# 9月3日（日）チーズケーキ作り講座



講座実施報告書

令和 5年11月12日

講座名	比内支援学校 第159回青年学級		
開催日時	令和 5年11月 12日（日） 10時00分～12時00分		
開催場所	中央公民館第1・2研修室、 視聴覚ホール、 視聴覚製作室、体育館	講師名	ワークショップ講師：河田美智子 小濱朗子、島内美佳子、浪岡美規子
参加者数	39名（青年学級19名、保護者ほか20名）		
成果	<p>第1部 木育ワークショップ</p> <p>今年は、ハチ公生誕100周年でもあり、記念事業として様々なイベントが開催されていることから、「杉の秋田犬の置き物作り」を行い、秋田犬と秋田杉の魅力を改めて知っていただいた。</p> <p>昨年度の青年学級でも木育ワークショップを開催したため、参加者からは「去年の講座が楽しかったので楽しみにしていた」「もの作りが楽しい」「仕事で木を扱っているので勉強になった」との感想があった。</p> <p>第2部 カラオケ、バスケットボール、ボードゲーム、UNO等</p> <p>ワークショップ終了後、各室に分かれ、カラオケ、スポーツ、ゲームなどを行った。昨年度カラオケの人気の高かったため、今年度はカラオケは会場を2カ所設けた。参加者は順番を守り、譲り合いながら楽しんでいた。</p> <p>終了後、参加者からは「公民館に来ることがないので楽しい」「来年もまたやりたい」との声が上がった。</p>		
課題	カラオケなどでは譲り合うことができるので、他者を認めていることは窺えるが、会話の交流は生まれにくいように見える。		



11月12日（日）比内支援学校青年学級





## 講座実施報告書

令和 5年12月17日

講座名	そば打ち講座		
開催日時	令和 5年12月17日（日） 10時00分～12時30分		
開催場所	比内公民館調理室	講師名	講師：田村徳秋
参加者数	12名（うち障がい者5名）		
実施内容	<p>（当日準備） 調理台等消毒、材料分量計測、打ち合わせ、受付準備</p> <p>（講座開始）課長挨拶、講師紹介後、</p> <p>①本日の流れを説明（(1)水回し(2)こね(3)延し(4)たたむ(5)切る）</p> <p>②切ったそばをゆで、試食した。</p> <p>③講座の感想発表を行い、終了</p>		
成果	<p>障がいのある方やその家族などを対象にそば打ち講座を行った。</p> <p>そば打ちから始まり、均等に切り分ける作業ではなかなかうまく出来ないなどコツが必要とされる中、参加者は作業を楽しみながら体験していた。</p> <p>参加者からは普段出来ないことを行い、達成感があった。楽しく作業ができた、等の感想があった。</p> <p>講師からは、企画当初、説明が伝わるのか不安があったが、実際に行ってみて、工夫して説明することの大切さを学ぶことができ、本事業だけでなく、今後の講座展開にもプラスになる体験ができたとの感想があった。</p> <p>参加者だけでなく、講師にも一緒に活動する体験が必要であることがわかった。</p>		
課題	講座参加者同士のつながりの構築		

12月12日（日）そば打ち講座



講座実施報告書

令和 6年 1月21日

講座名	第1回なんでも発表会		
開催日時	令和 6年 1月21日 (日)		10時00分～12時00分
開催場所	ほくしか鹿鳴ホール	講師名	
参加者数	121名 (参加者29名、ボランティア等37名、観覧者55名)		
実施内容	<p>○目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きなステージで歌ったり、踊ったりする夢を実現することで、その場を十分に楽しんだり、自信を得たりして潤いのある生活にする。</li> <li>・自分なりの生涯学習の成果を自分なりの方法で発表する。</li> <li>・大館市の目指す、障がいのある人と障がいのない人との望ましい共生社会実現の一助に資する。</li> </ul> <p>○事業内容</p> <p>第1部 発表者 (歌11名、ダンス3組12名、楽器演奏 ピアノ2名、カホン1名、オカリナ1名)</p> <p>ゲスト (クイズ大会1名、ピアノ演奏1名) 合計29名</p> <p>第2部 「みんなのコーナー」 出場者全員による歌とダンス</p>		
	<p>○打ち合わせ等日程</p> <p>9月 3日 打ち合わせ 事業概要 (案) のすり合わせ</p> <p>11月 1日 市内3高校へのボランティア参加者募集 (当日10名参加)</p> <p>11月 6日 参加者募集開始 委員が所属する就労施設へ声掛け</p> <p>11月12日 佐藤CDの就労施設訪問による事業説明</p> <p>11月21日 比内支援学校高等部への事業説明及び参加者募集 教職員のボランティア協力依頼</p> <p>12月 1日 白沢通園センター (就労B施設) への事業説明及び参加者募集</p> <p>12月25日 打ち合わせ 参加者ボランティア体制及び全体の流れを共有</p> <p>1月12日 会場視察 役割分担の確認、全体の流れを共有</p> <p>1月21日 なんでも発表会</p>		

<p>成果</p>	<p>ほくしか鹿鳴ホールにおいて、特技や好きなことを発表できる場として「なんでも発表会」を開催し、比内支援学校高等部生徒やゲストを含め、障がいのある市民21組の個人・団体が歌、ダンス等のパフォーマンスをのど自慢形式で披露した。</p> <p>参加者は大きなステージで歌ったり、踊ったりする夢を実現することで、発表の場を十分に楽しむことができ、来年度参加への意欲を持つ方もいた。</p> <p>ステージで発表することが、自信を得る機会となった。</p> <p>高校生ボランティアが障がい者の発表をサポートすることで、相互交流や障がい理解の機会となり、心のバリアフリーや合理的配慮を学ぶなど、共生社会の実践へつなげることが出来た。</p>
<p>課題</p>	<p>参加者同士を支援者（サポーター）が交流の糸口を作る。</p> <p>なんでも発表会の参加を通じて、生涯学習講座へのリピーターを増やしていく。</p> <p>講座の参加に障がいのない方にも一緒に参加してもらう取り組み</p>



# 1月21日（日）なんでも発表会



## ○今年度の成果と課題、来年度の事業実施について

### ○令和5年度 研究の成果と課題

#### ≪成果≫

#### ○障がい者のニーズ調査と講座企画の反映

- ・就労施設及び比内支援学校青年学級を訪問し、ニーズ調査を実施し、講座企画へ反映させることができた。

#### ○生涯学習開催講座

- ・2部制とし、1部でものづくり講座、2部は活動を選択し、楽しむことができた。
- ・活動を通じて、参加者と講師、協力職員との会話による交流や調理器具の共用による協力を自然に行い、皆で楽しむことができた。
- ・リピーターが増えてきており、職員を覚えてくれるようになってきた。

#### ○なんでも発表会の開催

- ・ステージでの自らの生涯学習の成果を発表し、たくさんの拍手をもらうことができた。
- ・観衆の中には、幼少時に関わりをもっていた市職員や保育士がおり、成長した姿を見てもらうことができた。

#### ○比内公民館の取り組み

- ・比内支援学校との連携
  - カフェの出店、芸術文化祭での軽食の提供
  - 新春書き初め会における書道に供する杉板制作の協力
- ・障がい者福祉サービス施設との連携によるとっと工房アート展の開催
  - 中央公民館及び地区公民館での巡回展開催

#### ○障がい者の活動を広げる取り組み

- ・栗盛記念図書館と比内支援学校との連携
- ・パラスポーツの普及と交流
- ・みんなでスポーツの会開催

#### ○障がい者サポーター養成講座の共催

- ・福祉部門（大館市障害者自立・差別解消支援協議会）との連携による開催
- ・受講者より、生涯学習講座情報の提供同意書を得ることができた。

#### ≪課題≫

#### ○講座参加者同士のつながりの構築

- 参加者同士を支援者（サポーター）が交流の糸口を作る。
  - なんでも発表会の参加を通じて、生涯学習講座へのリピーターを増やしていく。
  - 講座の参加に障がいのない方にも一緒に参加してもらう取り組みを行う。

#### ○社会教育施設における障がい者が参加できる講座企画

- 中央公民館との連携強化

#### ○障がい者サポーター養成講座における生涯学習講座情報提供同意書の有効活用

- 講座情報の継続的発信。サポートだけでなく、一緒に活動する体験を通じた障がい理解の機会提供

### ○令和6年度事業実施（案）

- （1）生涯学習連携協議会の開催（年3回）
- （2）生涯学習講座の実施

- 比内支援学校青年学級総会（4月）を訪問し、聞き取りを行い、講座企画へつなげる。

○講座展開の基本 2部制を継続

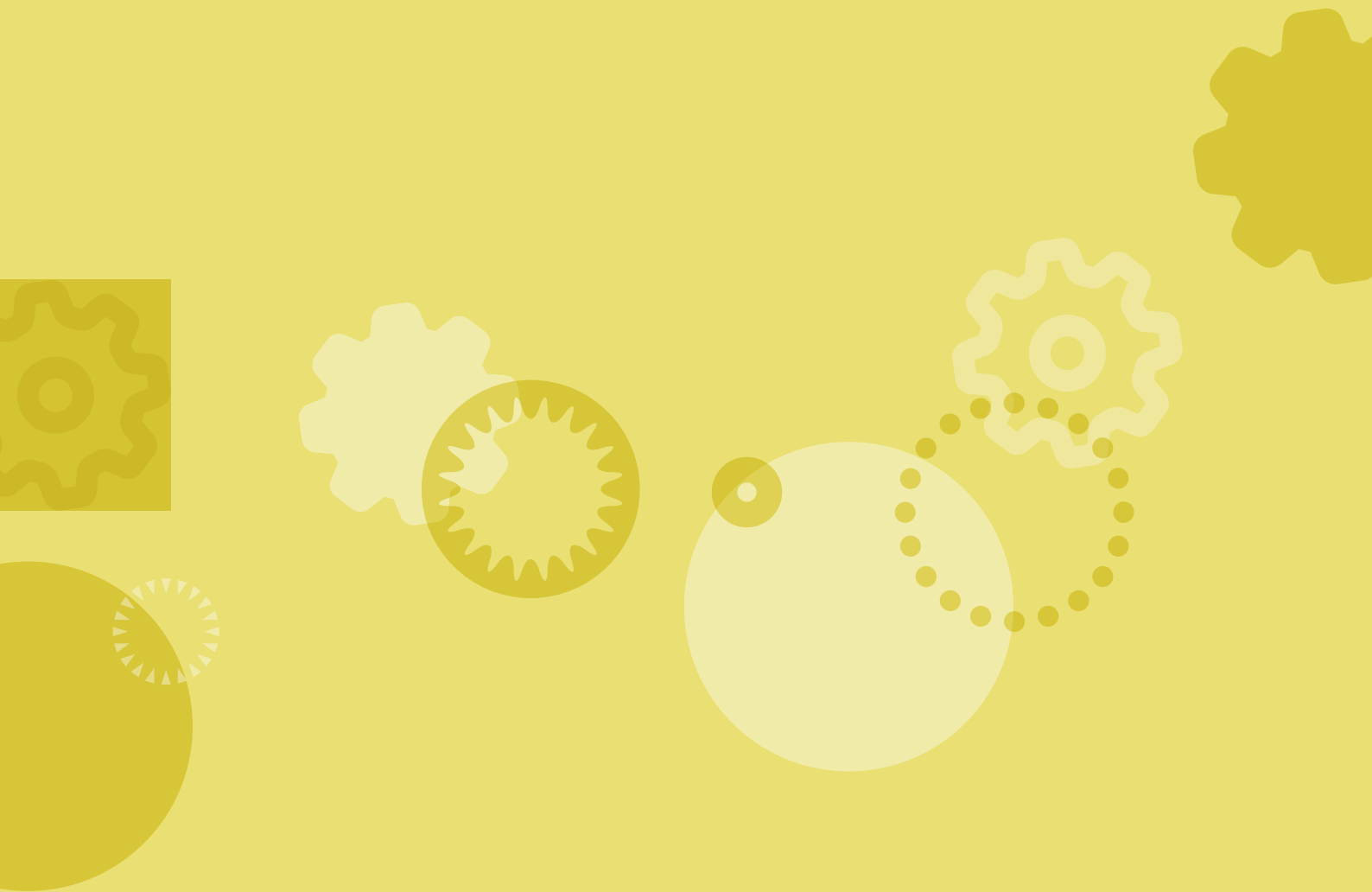
- ・音楽を楽しむ (青年学級、のど自慢大会)
- ・スポーツ体験を楽しむ (ボッチャ、フライングディスク、卓球バレーなど)
- ・ものづくり講座 (木育、料理)
- ・防災関連講座
- ・スマホ関連講座 など

(3) 支援者育成の取り組み

○障がい者サポーター養成講座の開催

- ・障がい者自立・差別解消支援協議会との共催の継続
- ・受講者中、生涯学習講座情報の提供同意者の輪を広げ、一緒に活動する機会提供による障がい理解と共生社会実現のイメージを体験する機会を作る。

# ○資料





# 大館市障がい者サポーター養成講座

【第1部】「障がい者サポーターとは？」 大館市障がい者自立・差別解消支援協議会

1

## 1. 障がい者サポーターとは？

簡単に言うと・・・

障がいがあるかたが困っているときに  
必要な手助けができる人



この缶バッジが目印です！

4

## 本日の講座内容

1. 障がい者サポーターとは？
2. 「秋田県障がい者への理解の促進及び差別の解消の推進に関する条例」について
3. 障がいとは何か？合理的配慮とは？
4. まとめ

2

## 2. 「秋田県障がい者への理解の促進及び差別の解消の推進に関する条例」について



- 秋田県が目指す社会  
障がいの有無にかかわらず、お互いを尊重し、支えあって、生き生きと暮らせる共生社会
- 現状  
命など様々な場面で差別的取扱を受け、社会的障壁により暮らしにくさを感している
- 社会の基幹としての取り組み  
障がいや障がい者について理解を深め、差別を根絶し社会参加の取組を促す。社会全体で取り組まなければならない。

5

## 2. 「秋田県障がい者への理解の促進及び差別の解消の推進に関する条例」について

### 不当な差別的取扱いの禁止

正当な理由がないのに、障がいを理由としてサービス提供等を拒否し、場所や時間を制限したり、障がい者ではない人には付けない条件をつけたりすること。

- 具体例として・・・  
・アルバイトを深しお客様に対し、障がいがあることを理由に契約を断った。  
・スポーツクラブや習い事の教室などで、障がいがあることを理由に入会を断った。  
・車いすを利用していることを理由に、レストランなどへの入店を断った。

7

## 1. 障がい者サポーターとは？

障がいに関する基本的な知識を持ち、障がいを理由とする差別をなくすよう心がけ、できる範囲で障がいのある方へ配慮や手助けを行うことができる方。

3

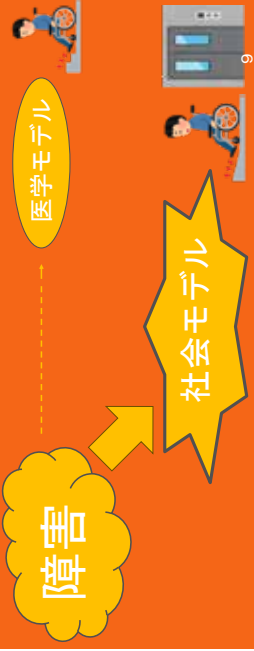
## 2. 「秋田県障がい者への理解の促進及び差別の解消の推進に関する条例」について

社会的障壁とは？



6

## 3. 障がいとは？合理的配慮とは？



9

### 3. 障害とは？合理的配慮とは？

#### 現在の大館市の障害者の状況

- ・身体障害者手帳を持っているかた 3,766名  
平成30年以降減少傾向であったが、令和3年から増加に転じている。
- ・療育手帳を持っているかた 721名  
ほぼ横ばいで推移している。
- ・精神障害者保健福祉手帳を持っているかた 730名  
年々増加傾向にある。

10

11

12

13

14

15

16

17

18

### 3. 障害とは？合理的配慮とは？

合理的配慮のポイント  
・社会的障壁の除去  
・個々のニーズに応じる



コミュニケーションが重要(o^\_^o)

### 3. 障害とは？合理的配慮とは？

ユニバーサルなメリットの認識



東京都 とうきょうアクセスマーク

19

### 4. まとめ

- ・できる範囲で配慮や手助けを！
- ・合理的配慮を提供する上で必要なのは、コミュニケーション！
- ・コミュニケーションを図るときのポイントは...  
障害について知識を持ち、理解すること  
ユニバーサルなメリットを認識すること

20

### 4. まとめ

ヘルプマーク、ヘルプカード



21

### 4. まとめ



22

### 4. まとめ

ご清聴いただき  
ありがとうございました



23

## 聴覚障害 体験発表

### 【5才で失聴】

桂城幼稚園の夏休み後、失聴  
城南小学校・大館一中を経て  
秋田県立ろう学校で5年間、  
印刷技術を学ぶ

### 【日常生活のようす】

買い物は、主にいとくなど  
セルフレジがあれば、それが  
気楽で良い。

### 【近所づきあいは？】

顔をあわせれば会釈はするが  
会話はしない。  
近所の人がどんな人か、  
わからない。

### 【外出の時の会話】

- メモ帳を持参
- タクシーの行き先は、書いて示す。
- 旅行先のバスでは、下りる場所を最初に運転手に見せて教えてもらう。

### 【就労していた頃の配慮】

- メモ帳を持参
- 障害者班の仕事の指示はメール・筆談。
- 聞こえる人だけで決めたことは、伝わらないこともあった。

### 【コミュニケーションは？】

- 手話が一番気楽。
- 付き合いの範囲が狭い。知らない人と何気ない会話はできない。
- ろう者・手話サークル・卓球クラブのみ。

### 【座談はむずかしい】



ろう者は、何が話されているかわかっていない

聞こえなくても、  
手話や筆談などで困らない社会  
これがサポーター養成講座  
参加の皆さんへの期待です



## 聴覚障害の状態は一人ひとり違う

- 全く聞こえない人
- 聞こえにくい人
- きれいに発音できる人
- 発音がわかりにくい人
- 聴覚障害者 → 医学的・行政的な用語
- ろう者 → 手話で会話している人
- 難聴者 → 聞こえ方がまちまち
- 中途失聴者 → 大人になって失聴した人

## 対応のポイントは「目に見える」こと

- 口を見せもらう
- スマホのアプリ
- 身振り、指さし
- 空書き
- 筆談
- 指文字
- 手話

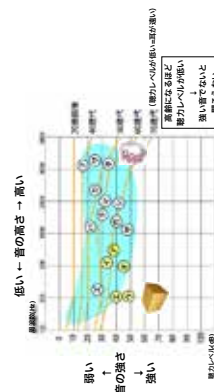
聴覚障害の  
ようすは  
10人10色。  
対応の方法は  
「本人に聞く」  
のが  
ベスト！

## 補聴器をつけていても 会話ができない理由



補聴器

補聴器サービス：http://ha-service.jp/contno.html



段ボール周波数…150～500Hz (低音)  
鈴の周波数 ……10000Hz (高音)

ろう者

高音  
鈴

聴者

ろう者

低音  
段ボール

聴者

### 【実験のポイント】

ろう者は、低音と高音の聞こえ方は同じ？  
ろう者は、どのくらい近寄れば聞こえる？

### 【実験のまとめ】

高音（子音）が聞こえないと言うことは…

例えば「竹下さん (Ta-Ke-Shi-Ta-Sa-n)」という言葉が、子音 (T,K,Sh,T,S) が聞こえなくなり、母音の強調によって「あえいああん (a-e-i-a-a-n)」という風に聞こえてしまうのです。また、「聞こえた音のイメージから推測して「あれはいかん」と判断してしまうこともありえます。

### 【実験のまとめ】

「あえいああん」は、聴力が残っている場合。  
講師の場合は、ほとんど聴力が無く、音のバランスも崩れているため、声としては全く聞き取れない。

講師の場合…

「大声」「補聴器」 → 会話の役には立たない

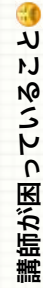
## 講師が困っていること

聞こえないことを、分かってもらえない  
→ 聴覚障害=見えない障害

聞こえない → 耳が遠い → **大声!** の誤解  
うるさい  
奇異の目を浴びる  
腫が飛んでくる

適切な援助が受けられない  
→ 筆談でさえも、逃げられる

最近、  
だいぶ改善されたが…



日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会ホームページより転載（写真提供）

## 高齢者の有毛細胞

・日常の音への曝露ばくろ（さらされる）が何十年と続き、有毛細胞がダメージ

→若い頃はびっしりと生えそろっていた有毛細胞はところどころ抜け落ち、音の情報をうまく伝えられない状態に

## まとめ

- ・補聴器や人工内耳をつけていても、**100%は聞き取れないので注意が必要。**
- ・対応は、**本人に確認しながら目に見える方法で**  
手話、筆談、静かな所でゆっくり話す、アプリ...
- ・筆談でも、**大きい字で・適切なアイテムで・短く分かりやすく**と相手に合った工夫は必要。
- ・手話通訳者が同行している場合でも、**対象者は聞こえない人本人**である。

音→外耳道→鼓膜→耳小骨→内耳→聴神経→脳

外耳→外耳道→耳

中耳→中耳

内耳→内耳

聴神経→脳

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる

電気信号が伝わる



補聴器

## 聴覚障害の種類

1. 伝音性難聴→補聴器適用効果○

聞こえにくいが話分かる

2. 感音性難聴→補聴器△

聞こえても、話が分からない

1. 小さい音が聞こえない

2. 話し言葉の聞き分けが難しい

3. 大きい音はうるさく感じる

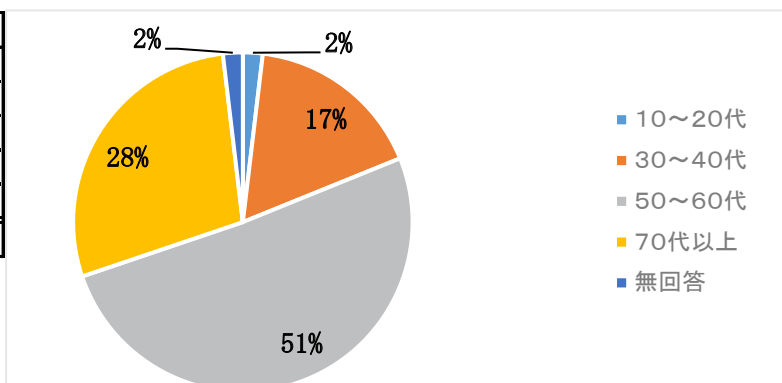
4. 聞きたい音が選び出せない

3. 混合性難聴→補聴器△

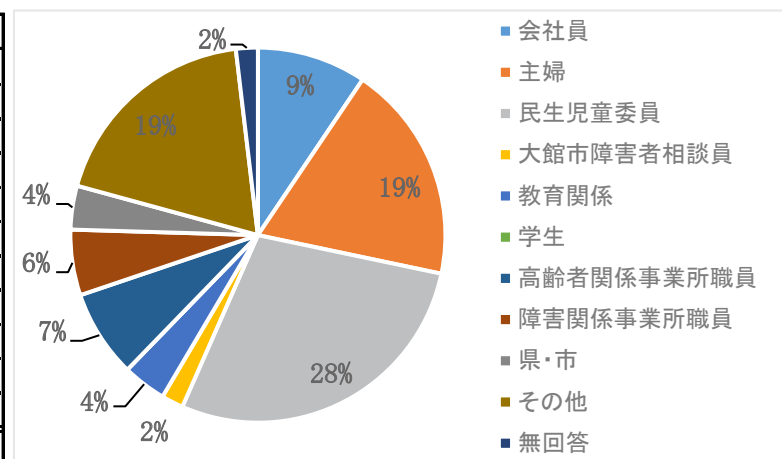
## 令和5年度 大館市障がい者サポーター養成講座 アンケート集計結果

配布：56 回収：53 回収率：約95%

	年齢	数	割合
1	10～20代	1	2%
2	30～40代	9	17%
3	50～60代	27	51%
4	70代以上	15	28%
5	無回答	1	2%
計		53	100%

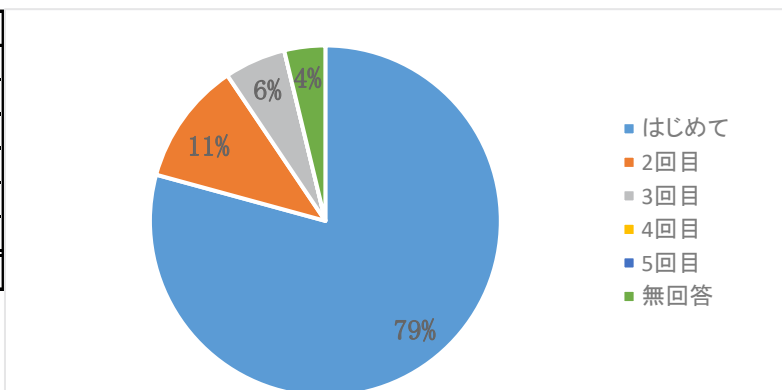


	ご職業	数	割合
1	会社員	5	9%
2	主婦	10	19%
3	民生児童委員	15	28%
4	大館市障害者相談員	1	2%
5	教育関係	2	4%
6	学生	0	0%
7	高齢者関係事業所職員	4	8%
8	障害関係事業所職員	3	6%
9	県・市	2	4%
10	その他※	10	19%
11	無回答	1	2%
計		53	100%



※ 自営業、無職、失業中、障がい者家族、パート2

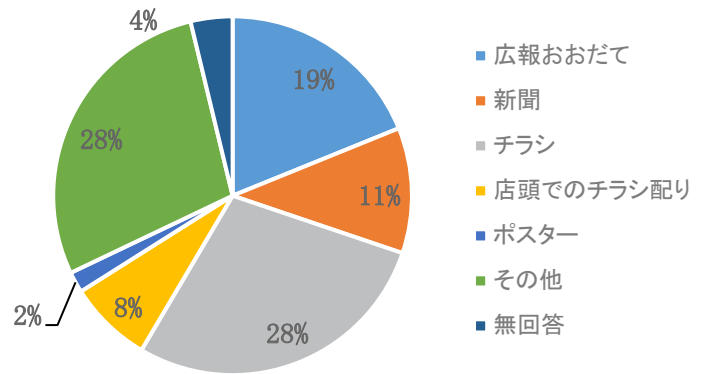
	参加回数	数	割合
1	はじめて	42	79%
2	2回目	6	11%
3	3回目	3	6%
4	4回目	0	0%
5	5回目	0	0%
6	無回答	2	4%
計		53	100%



1. 障がい者サポーター養成講座について、何を見て知りましたか（あてはまるものひとつに○）

		数	割合
1	広報おおだて	10	19%
2	新聞	6	11%
3	チラシ	15	28%
4	店頭でのチラシ配り	4	8%
5	ポスター	1	2%
6	その他※	15	28%
7	無回答	2	4%
計		53	100%

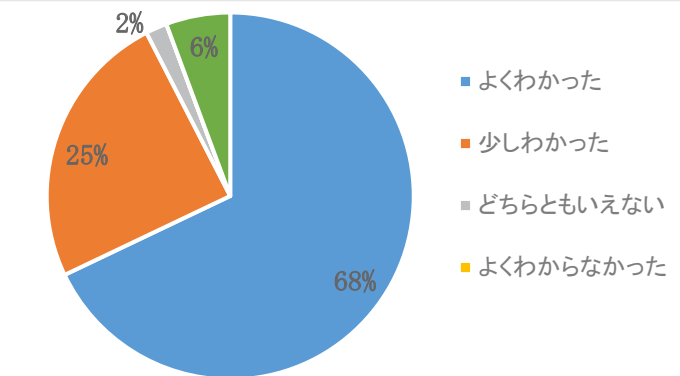
※ 民生児童委員の定例会 6、友人 1  
障害者団体を通じて 1、職場のパンフレット 1



2. 内容について(あてはまるものひとつに○)

【第1部 障がい者サポーターとは】

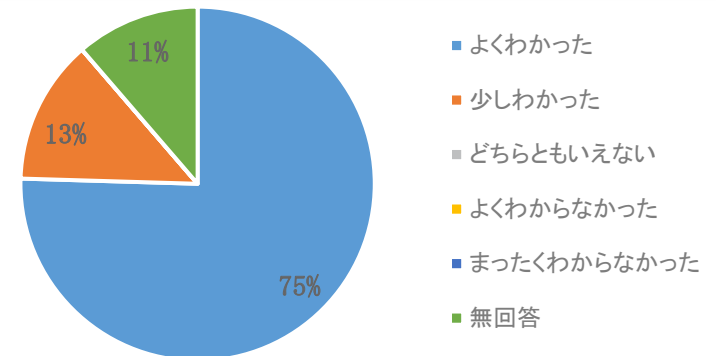
		数	割合
1	よくわかった	36	68%
2	少しわかった	13	25%
3	どちらともいえない	1	2%
4	よくわからなかった	0	0%
5	まったくわからなかった	0	0%
6	無回答	3	6%
計		53	100%



【第2部 当事者からの体験発表】

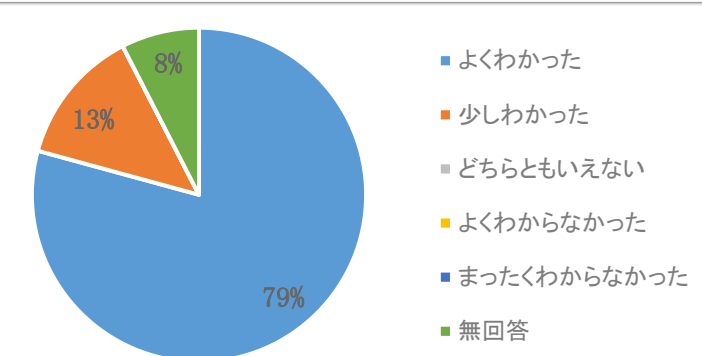
<大館市ひとみの会：皇山氏>

		数	割合
1	よくわかった	40	75%
2	少しわかった	7	13%
3	どちらともいえない	0	0%
4	よくわからなかった	0	0%
5	まったくわからなかった	0	0%
6	無回答	6	11%
計		53	100%



<大館市聴力障害者会・手話講座：三ヶ田氏>

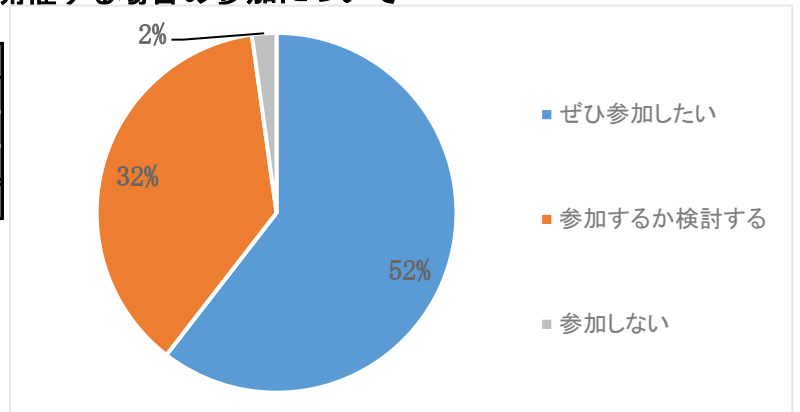
		数	割合
1	よくわかった	42	79%
2	少しわかった	7	13%
3	どちらともいえない	0	0%
4	よくわからなかった	0	0%
5	まったくわからなかった	0	0%
6	無回答	4	8%
計		53	100%





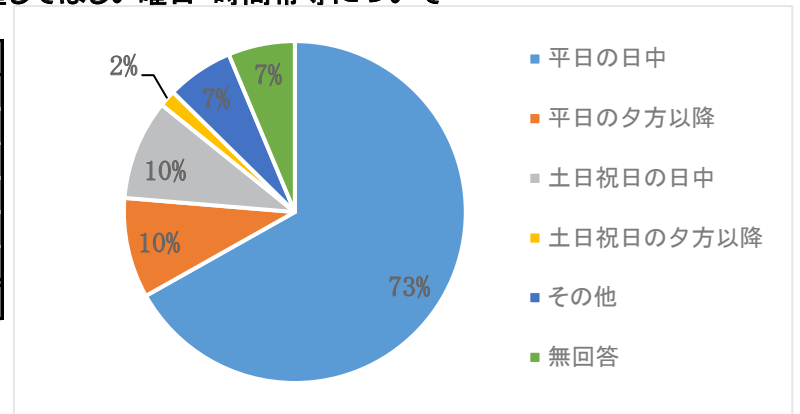
### 3. 今後、障がい者サポーター養成講座を開催する場合の参加について (あてはまるものひとつに○)

		数	割合
1	ぜひ参加したい	35	52%
2	参加するか検討する	17	32%
3	参加しない	1	2%
	計	53	100%



### 4. 今後、障がい者サポーター養成講座を開催してほしい曜日・時間帯等について (複数回答可)

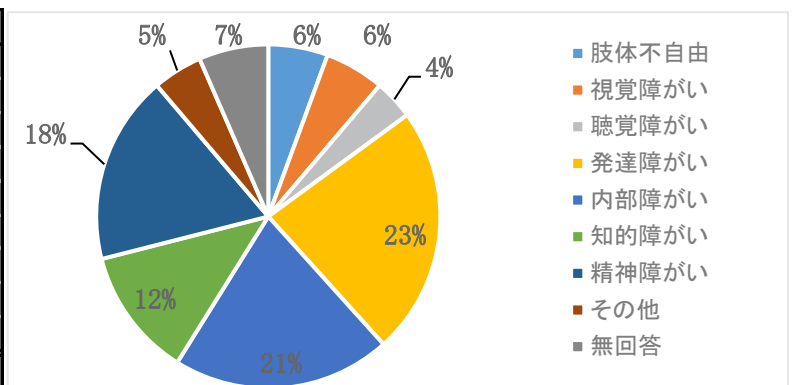
		数	割合
1	平日の日中	37	73%
2	平日の夕方以降	6	10%
3	土日祝日の日中	6	10%
4	土日祝日の夕方以降	1	2%
5	その他 ※	4	7%
6	無回答	4	7%
	計	58	100%



- ※ ・ 99歳の高齢者がいるので何とも言えない  
 ・ 主催者におまかせします  
 ・ 主催者の日程に積極的に合わせたい。講座の約1ヶ月前に日時がわかれば調整がつく

### 5. 今後、障がい者サポーター養成講座で取り上げてもらいたい障害種別について (複数回答可)

		数	割合
1	肢体不自由	6	6%
2	視覚障がい	6	6%
3	聴覚障がい	4	4%
4	発達障がい	25	23%
5	内部障がい	22	21%
6	知的障がい	13	12%
7	精神障がい	19	18%
8	その他 ※	5	5%
9	無回答	7	7%
	計	107	100%



- ※ ・ 運動療法  
 ・ 運動療法サポーターの活動について  
 ・ 精神障がい者に対する差別  
 ・ 体験発表をたくさん聞きたい

6. 今回の講座で学んだことを、日常生活のどのような場面で活かしたいと思いますか。また、本講座の受講前と受講後では障がいや障がい者に対する考え方や気持ちに変化等ありましたか。感想等、自由にご記入ください。(自由記述) (原文ママ)

- ・日常生活で障害をもっている方と接することがほぼありません。今後役に立てたいと思います。
- ・大げさなことでもなく、自分の回りのできることから少しずつコミュニケーションを図って行くことが大切であると改めて実感しました。
- ・とても勉強になりました。特に三ヶ田典明さん、畠山哲也さんの話が良かった。手話がもっと、もっと広がればいいなあと思います。
- ・聴覚障害者、三ヶ田さんのお話(手話含む)は大変参考になりました。胸が熱くなって涙が出てきそうでした。
- ・手話の方(上手、スピーチ台下)がいらっしゃるのに座っていて見えず残念でした。“立って”か“ステージ上”でやってくれるとよかった。自分自身、視力が弱く、手帳は持っていませんが、手帳を持った時のメリット、デメリットが知りたかった。
- ・全く無知でした。今後は配慮しながら生活してゆきたいと思います。体験者の方々のお話は具体的にイメージしやすかったです。ありがとうございました。
- ・意識付けとなりました。日常生活に反映したいと思います。
- ・当事者の体験発表で知らなかったこと、対応のしかたを知ることができました。日常で役に立てていきたいです。
- ・大変勉強になりました。とても分かりやすい講座でした。ありがとうございました。特に体験発表は実体験なので分かりやすく、その場にいたら支援をしたいと思いました。障害の状態は、一人ひとり違うという事が、よく理解でき、何に困っているのか、まずは知ろうという気持ちになりました。
- ・肢体不自由な方には、声をかけやすく、普段でも声がけはできていた。今後、それ以外の障がいの方にも、意識して声がけをしていきたい。三ヶ田さんが退席する時、手話で拍手をする方が多数いてビックリしました。
- ・これからの仕事に役に立てたいです。ありがとうございました。
- ・私は家族に精神障がいをもつ子供と、内部障がいをもつ姑がいます。長年二人のお世話をしながら思うことは、家族のサポート(理解)はもちろん大事ですが、行政のサポートや本人をとりまく、第三者のサポートがとても大事で、今までのサポートに感謝しながら今後もこの経験を糧にすすみたいと思います。
- ・障がい者も重度、軽度で対応が違うなと思いました。実際の体験を聞き実感がわきました。「お困りですか?」「何かお手伝いしますか?」この言葉がとっさに出る様な生活を心がけたいです。
- ・買い物中等、サポートが必要であろう方に会っても声を掛けられずにいました。挨拶から始め、過度のサポートにならないように援助していきたいと思った。今回の研修で、背中を押してもらえたような感じがします。ありがとうございました。
- ・買い物時など、困っている方を見かけたら手助け・声かけをしたいです。又自分がそうなった時は助けをかりたいです。そして「ありがとう」の一言を忘れないようにしたい。
- ・体験発表で当事者の方から直接、困りごとや不便さを伺うことができ、とても分かりやすく、理解しやすかったです。ありがとうございました。

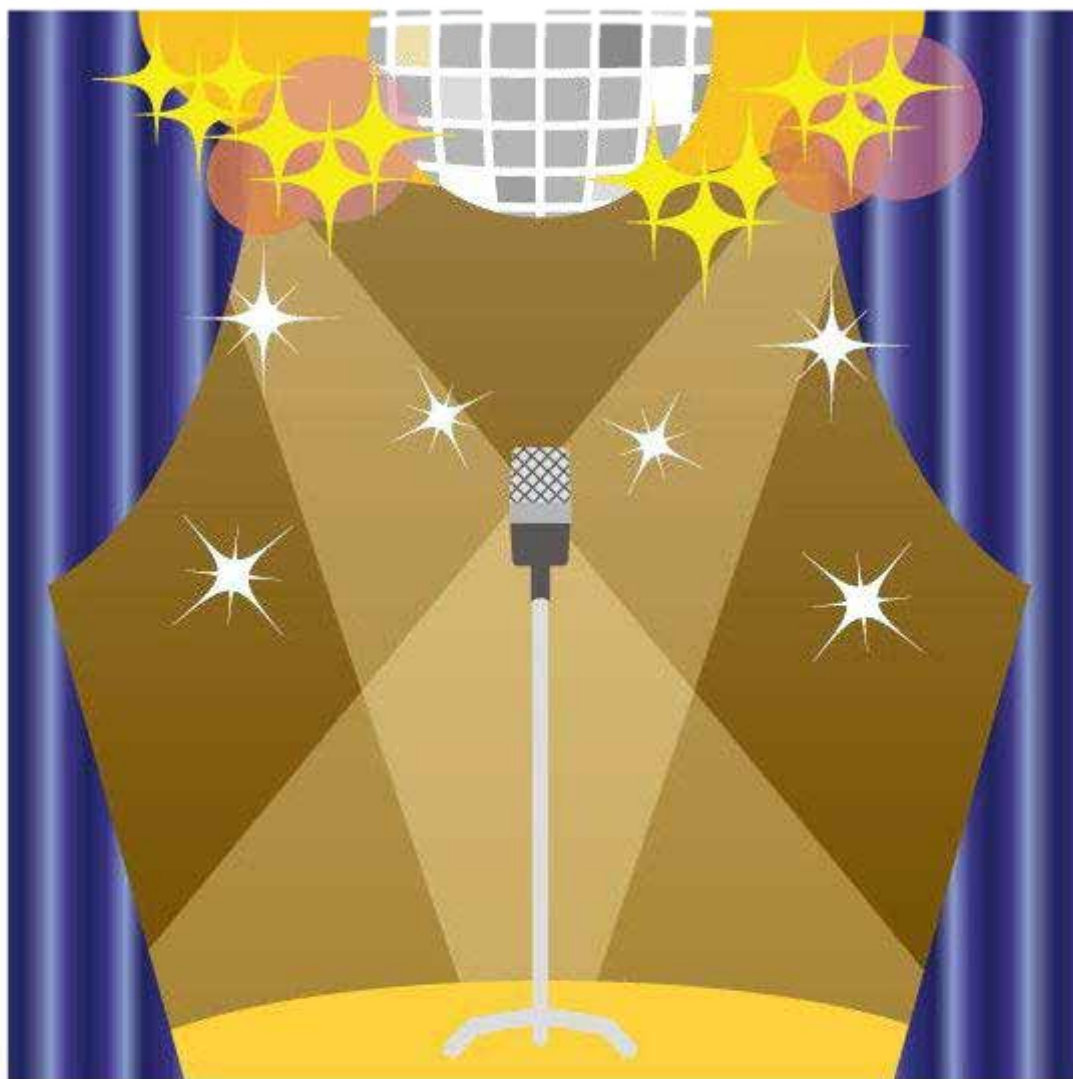
- ・手助けが出来ればと日頃より思っているが、肢体不自由な方であれば見てわかるが、その他の障がいをお持ちの方は一見してわからないので、手助けしたいと思っても実行に移せないという一面がある。（ヘルプカードを身につけている人を今迄目にした事がないという現実）
- ・自分もいつ障がい者になるかもしれない。身内がそうなるのかも知れないと考えた時、他人事ではないと思いました。三ヶ田さんの実話には涙があふれました。小さな助けでも出来たらと思わされた講座でした。ありがとうございます。
- ・三ヶ田さんの講演よかったです。わかりやすく、苦労はいろいろあるでしょうが、強い人だと思いました。
- ・障がいの程度は個々で違うので何が困っているか聞いたりしてから、サポーターが必要なのだと思った。当事者からのお話を直接聴くことによって、何が困るかがよくわかった。
- ・実践も必要かと思います。すばらしい内容でした。高校生や大学生等の若者にもぜひ聴いてほしいと思いました。
- ・最後の手話がよかったです。手話について学んでみたい。
- ・初めての参加でまだまだわからないことがたくさんあると感じました。最後に質問されていた方の気持ちがとてもよくわかりました。今後、学校等で詳しい内容で勉強ができ、そのような気持ちの子供たちが増えてほしいと思いました。今日はありがとうございました。
- ・障がいについての知識をもっと増やしていきたいと感じた。
- ・自分自身、夫が全聾者ですので、健常者の私の対応はまだ改善の余地があると思われました。実生活は我慢比べのような日々（イライラ感）が日常です。今後も我流でがんばります。
- ・サービス業をしているので障がい者と会う機会があり、参加してみました。コミュニケーションが大事と改めて感じた、積極的に話しかけようと思います。ありがとうございます。
- ・先生方とてもユーモアあって笑いもあり楽しく講座を受ける事ができました！今まで大変苦勞されてきたと思います…。話したくないこと等もあったかと思いますが、沢山お話を聞けて大変有意義な時間でした。私は、現在介護ヘルパーとして働いています！障がいのある方への支援に役立てていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・民生委員を引き受けて23年間、いろいろな想談を受ける様になりました。時代と共に想談内容も高齢者から若年に増えたり、幅広く変化しています。今後、知り得た知識を生かして行きたいと思います。
- ・困っている人がいたら、手をさしのべたいと強く思いました。自分からも声をかけられるように頑張りたいです。今日は勉強になりました。ありがとうございました。
- ・知的障害、発達障害をもった子供がおります。今は社会人として働いています。雇用していただいている会社にはありがたいと思っていますが、実際の職場ではコミュニケーションはとれておらず、居心地の悪さを感じています。本日の体験発表をしてくださったお二方とも、コミュニケーションの大事さ、手助けの方法は本人に聞いてほしい事をおっしゃってました。もっと沢山の人が、色々な障がいを理解して、声をかけてあげられるような社会になってほしいと感じました。
- ・障がいのある方を見かけたら、迷わず声がけしたいと思います。手話を覚えたいと思いました。声がけは、前からが大事です。
- ・第1部のスライドが見やすくわかりやすかった。県と市では「害」の字の使い方が違うということもわかった。

- ・現在聴覚障がい者と働いていますが、ていねいに聞く耳をもつ、大事ですね。今後も末永くの仲でいたい。※若い頃聴覚障がいの方宅へ招待され、夫婦共障がいがあり、その時は居間に赤いランプ点灯すると来客との事でビックリ、現在も年賀のやりとりあり、小田原の方でした。
- ・サポーターとしてお手伝いできれば良いなと思いますが、どういう機会がありますでしょうか。
- ・現在介護事業所でヘルパーとして働いています。以前より「障がい」について詳しく知りたいと強く想い参加させていただきました。
- ・今回の参加で「障がい」について多くの知識が得られ大変よかったと考えています。次回は手話も覚えてみたいです。
- ・全ての場面で声かけ、サポートができるのが嬉しいです。缶バッチが活かせるのは安心してサポートできます。又サポート依頼etc.のPR、呼びかけがあれば積極的活動にいかせるのでは…?!と。ヘルプマークが目につけばいいのですが…今の時代はサポートしたくても不快な気持ちにさせないかなど気になります。※現在高次脳機能障害の息子がおりますが（精神科（市外）入院中です。そういう相談をする所がわからず心痛な日々です）
- ・障がいをもつ方の困り事など、また自分がイメージしていた事と異なることもあった。これを知る機会があり、よかったです。
- ・困っている様子を見かけた時には、積極的にコミュニケーションを取るようにしたいと思います。今までも障がいのある方と接する機会はありませんでしたが、耳を傾けて様子を見、身ぶり手ぶりで接したりすれば理解が可能な場合が多々ありました。見て見ぬふりをする人もいますが、みんなで積極的に声をかけてあげて助け合っていきたいと思います。

# 第1回なんでも発表会

～今君は、

ほくしか鹿鳴ホールのステージでスターになる～



# 1/21 (日)

会場：ほくしか鹿鳴ホール 中ホール

- 9:00～10:00 受付
- 10:00～10:05 開会（教育長挨拶、審査員紹介）
- 10:05～11:05 第1部「なんでも発表会」
- 11:05～11:20 スペシャルタイム
- 11:20～11:30 表彰
- 11:30～11:35 休憩
- 11:35～11:45 第2部「みんなのコーナー」
- 11:45～12:00 閉会（生涯学習課長挨拶、記念撮影）

## 【会場の皆様へのお願い】

- ※ 会場内（中ホール）での飲食はできません。
- ※ 建物内はすべて禁煙となっております。喫煙は指定場所で行います。
- ※ 携帯電話はマナーモードに設定していただくようお願いいたします。
- ※ 撮影した写真や動画を SNS 及びインターネット等へ掲載しないようお願いいたします。

## 編集後記

文部科学省から委託を受け3年目の事業を展開しました。1年目は「作る」をテーマに事業をスタートしました。2年目は「広げる」をテーマとし、本協議会の関係者の協力により、事業の幅を広げることが出来ました。

3年目となった今年度「展ずる」をテーマとし、新型コロナウイルス感染症の5類移行により活動の範囲を広げ、多くの関係機関との連携をさらに深めると共に、連携協議会委員の活発かつ前向きなご意見と後押しをいただくことで、より充実した事業展開を図ることができました。

特に、「なんでも発表会」開催では、障がいのある方が自分なりの生涯学習の成果をステージ発表する機会となっただけでなく、発表する姿を通じて、サポートする委員や学生ボランティア、観覧者など、同じ時間を共有した全ての方々が障がいの有無に関わらず、共に生きることを体験できたのではないかと思います。

今後は、連携の輪は広げるだけでなく、深めていくことも重要だと思います。今後も、連携協議会委員のご意見や障がいのある方の声に耳を傾けながら、障がいのある方が学び続けられる環境の構築に微力ながら、尽力していきたいと思えます。

発刊にあたり、たくさんのご協力いただきましたことを、深く感謝申し上げます。

### ◀ 表紙のシールアートについて ▶

制作者：八代 悠亜（やしろ ゆあ）氏

- ・市内の就労支援施設（とっと工房）に通所している障がいのある方
- ・下絵のない原板に、悠亜さんの頭の中にあるイメージのままシールを貼り付けて完成させます。
- ・具体的な対象物やモデルはなく、出来上がるまでどんな作品ができるかは分かりません。
- ・シールの色や大きさは、施設の支援員が並べたものの中から悠亜さんが選びますが、シートの上は使い切るといったこだわりがあります。
- ・3年ほど前に、支援員がやってみないかと声をかけたところ、集中して取り組み始めました。
- ・過集中してしまうため、取り組む時間を1回15分と決めて取り組み、1つの作品を4日ほどで完成させます。  
※週4日通所のため、1週間で1作品を完成させるイメージです。
- ・3年間で作った作品は9作品。とっと工房（前田野事務所）やとっと工房グループホームたのしいわが家などに飾られています。
- ・今年度は、公民館のとっと工房アート展にも出品し、多くの市民の方々に鑑賞していただくことができました。

文部科学省委託事業

令和5年度「学校卒業後における障がい者の学びの支援に関する実践研究事業」

大館市「障がい者の生涯学習」推進事業 事業報告書

令和6年（2024）年3月

編集・発行

大館市教育委員会生涯学習課

〒018-3595 秋田県大館市早口字上野43番地1

TEL：0186-43-7113

FAX：0186-54-6100

E-mail：gakusyu@city.odate.lg.jp